

羊蹄山避難小屋とトイレの利用について

北海道地方環境事務所国立公園課

○経緯

既存避難小屋（北海道執行、昭和 47 年新築）の老朽化が進み、隣接箇所に避難小屋を新築。

- ・完成日：平成 25 年 10 月 15 日
- ・完成当初は冬期避難小屋として供用開始し、6 月の山開きに伴い本格的な供用を開始。

○施設概要

- ・木造 2 階建 建築面積：39 m² 延床面積：78 m²
- ・収容可能人数：約 50 名（旧避難小屋 約 100 名）
- ・トイレ：土壌処理（TSS）方式（ペーパーの持ち帰りを周知）



○管理運営体制等

- ・北海道地方環境事務所と「羊蹄山管理保全連絡協議会（5 町村）」が維持管理協定を締結。
- ・既存避難小屋の運営と同様に通年開放し、夏期（6 月中旬～10 月中旬）は管理人が常駐。
- ・平成 26 年度登山者数は 11,204 人、避難小屋宿泊者数は 1,081 人、休憩のみ 175 人。
- ・平成 27 年度登山者数は 11,392 人、避難小屋宿泊者数は 1,287 人、休憩のみ 870 人。

○トイレの利用状況と管理状況

年間利用者推計は、H26 は 1,256 人、H27 は 2,157 人（※宿泊者数と休憩のみ的人数を合わせた数字。）TSS 方式を導入しているが、尿尿の量が稼働量に到達していないので設備は未稼働。

○TSS 方式について

TSS(Taisei Soil System)は土壌のもつ自然の浄化力を高度に活かした汚水処理システム。前処理装置に流入した汚水は、嫌気性処理された後、土壌処理装置に送り込まれ、土壌微生物による好気性分解が行われる。5～10 年はくみ取り不要。シーズン初めと終わりに米ぬかを消化層に 15Kg 投入している。